

神奈川県立平塚ろう学校 令和6年度第1回学校運営協議会 開催報告

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立平塚ろう学校における第1回学校運営協議会
開催期日	令和6年5月30日(木)
開催場所	神奈川県立平塚ろう学校 会議室
出席者	神奈川県立平塚ろう学校 学校運営協議会委員 10名
次回開催予定日	令和6年10月
問合せ先	平塚ろう学校 副校長 吉田 電話 0463-32-0913 FAX 0463-32-1646 電子メール hirarou-sd@pen-kanagawa.ed.jp
議題	1 学校運営協議会運営計画について 2 令和6年度学校経営及び学校目標について 3 令和6年度不祥事ゼロプログラムについて
審議(会議)経過	1 学校運営協議会運営計画について 【説明】 実施体制については、昨年、「INCLUSIVE HUB SHONAN」が追加になって以降、その他、特に変わっていない。 第2回学校運営協議会の開催日は、現時点で委員2名の都合が悪いので再調整とする。 2 令和6年度学校経営及び学校目標について 【説明】 資料4学校教育計画は、令和6年度～9年度の4年間のものとなる。この4年間の計画に対して、1年ずつの目標を立てている。昨年度で4年間のミッションを終えて、その結果を受けて新たに4年間の計画を立てている。 (1) 学校のミッションの文面の最後の部分にある、「そして、神奈川県手話言語条例…」の一文に表しているように、手話を普及すると同時に学校として色々なツールを活用しつつ行っている。 来年度は、東京でデフリンピックが開催される。平塚ろう学校も100周年を迎える。そういうことをきっかけに学校の意義、手話の普及などを進めていくのが学校としての務め。そのためにも、この会での色々なご意見をいただくことができるとありがたい。 (4) 4年間の目標と主な方策 コロナの感染が危ぶまれたときには、安全安心に日常を重ねられることが大事だと思っていた。今もそれは同じ。学校に来て楽しかった、良か

ったという思いを積み重ねられることが大切と考えている。

それを目に見える形でまとめたのが資料3ブランドデザインとなる。柱として考えたいことを示してある。かみ砕いて分かり合えるように言葉を変えて表してある。

資料5は、とても細かなものになっている。具体的にどのように進めていくのか、というものになっている。個々の部分を中間の反省、年間の反省としていく。ご意見をいただく、そして次の目標としていく、というサイクルでやっていきたい。ご理解とご協力を。

3 令和6年度不祥事ゼロプログラムについて

【説明】

年間の研修計画等、昨年度と大きく変更になっているところはない。基本的には、令和6年4月に県教委から発出されている「令和6年度不祥事防止取組方針」に沿って策定している。

神奈川県としては、引き続き、わいせつ事案の根絶に向けた取組を第1に取り上げており、本校の重点取組方針の(1)は、わいせつ事案の根絶を含め、「教職員に求められる高い倫理観の保持・向上」とした。

そして(2)は、幼児児童生徒に対する人権意識を持った指導や不適切指導の防止等、「学校現場に特有の不祥事、公務上発生する不祥事の防止」を掲げた。

7月には、総合教育センターから講師を招いて、校内不祥事防止研修を開催する予定。

また不祥事防止には同僚性の向上が重要な要素だが、その同僚性を高めるために、自分の考えや気持ちを安心して発言できる職場環境づくり、すなわち、心理的安全性の高い職場づくりに取り組んでいきたいと考えている。事故・不祥事ゼロの継続を目指していく。

4 自由協議

【意見】

ろう学校内で、保護者が求めるのは、手話での教育。子どもとコミュニケーションが取れるのが大事。ろうの先生は何人？

保護者の意見としては、増やしてほしい。

→現在11人。

【回答】

教職員の採用としては、県に相談させていただいている。県内関東ろう学校の様子を見ているとろう難聴の先生方が少しづつ増えているが、その方々が働きやすい環境作りも大事で、訴えている所。ご意見として

は、伝えていける時があればそうしたい。

【意見】

学校目標2 校内で起きる様々な事案に対し…の部分に関して、具体的なお話等が聴けるとありがたい。

【回答】

ここで詳しくはお話できないが、色々な問題が起きたときに、できるだけ早く適切な対応をする。ということは、当たり前のことではあるが、それをあえてこのように文章化して載せることが意識付けの意味にもなると考えている。

【意見】

学校目標4地域との協働、切れ目ない支援体制の構築に向けてこれはとても大切、地域に向けて。県内唯一のろう学校とは言えないとしても、中心的学校であると考えて。県内、全国に向けて様々な発信をしていただきたい。

【回答】

ご指摘いただいた情報発信の部分で、今年度取り組みたいと考えていることがあるので、ここでご説明させていただきたい。「本校のHPを見れば、ろう難聴の事がわかる」、という情報の掲載等の工夫をするための整理をしたいと思っている。

【意見】

インクルハブの情報発信に関して、学校のこと、障害のこと、手話のこと、湘南ジャーナル、タウンニュースなど、神奈川新聞、ベルマーレなどで手をつないでやっていこうとしている所。来週には、教員との連携会議が予定されている。(校長が参加)今年度は、共生社会のイベントが10個くらいある。

先日もサップのイベントを大磯ロングビーチで行った。メディアとしても発信していく。支援連携の先生とも協力して学校を盛り上げていけたらと考えている。

来年、デフリンピックが東京開催として行われる。9月くらいに平塚漁協や、平塚市にある大きな会社にスポンサーになっていただき、デフサップ大会を開こうと思っている。

デフサップ協会を立ち上げようとしているところ。ろう学校の保護者が入ってくれて、全国にも発信していく。デフリンピックの時に、エキシビジョンでサップを入れてもらえないかと考えている。興味のあるお子さん、保護者などにも情報共有していただきたい。

ろう難聴者は、言語が違うだけで、皆さんとても元気。チャレンジ精神も旺盛。ぜひ、学校も協力して欲しい。

【質問】

デフリンピックの種目にサップはないっていいのですか？

【回答】

サーフィンはあるが、デフサップはなっていない。サップの大会をやらないと、スポーツの一つに挙げてもらえない。そういうこともあり、年内に大会を開催しようと考えている。

【意見】

湘南ジャーナル協賛。「湘南手話市場」の3回目を9月に行う。見附台広場で行う。ろう学校の子供達に色々な経験をさせたい。1回目は、スタバでのコーヒー販売、2回目は、不二家の協力をいただき、「ペコちゃんのほっぺ」の販売をした。3回目はまだ決まっていないが、共生社会の実現のためにも積極的に活動していきたいと考えている。

UD ダンスのコラボもしている。お店の方々もろう者だけではなく、聴者も多くいて、来場者の8割は、ろう者だったが、筆談ボード等を活用し普通にコミュニケーションを取っていた。この活動がこれからどんどん大きくなっていくといい。

【意見】

インクルハブも協賛している。場所の確保などにも平塚市にもご協力いただいている。

【意見】

子どもの主体性も育てられると考えている。

【意見】

来年2月1日に6ロータリークラブが協力して「えむ」の映画の上映を行う。ロータリアン150人に興味を持っていただきたい。校長に、ろう学校の現状、ろうに対しての話をさせていただく。多くの一般の方々にもいらしていただきたい。

【意見】

資料4にあるが、企業や本人の困り感について日々感じていることがある。色々な課題の原因は、常にコミュニケーション不足。本人は大丈夫だというが、会社側はその問題を把握できていなかったり会社が困ったりしているケースが多くある。聴覚障害の方が、自分から積極的に話しかけていくくらいでないと会社でやっていけない。

【意見】

地域との関わり、同じ町内会の環境。毎年、秋の文化祭を見学させていただいている。和太鼓が感動的。ぜひ、地域の人に聞いてもらいたいという思いからコロナ前に実現させようとしたが、直前に中止となってしまった。今年3月に大原公民館祭りで改めて和太鼓を皆さんに見て欲し

かった。日程の調整が難しく、当日は、ビデオを流した。校長先生には来場いただいた。大原公民館、小学校は2Fでつながっている。公民館祭りは子ども達が沢山来る。多くの地域の子供達に平ろうの素晴らしい和太鼓の演奏を是非見てもらいたい。今後もどのタイミングでできるのか検討していきたい。

避難所運営協議会、以前はろう学校からも先生が来てくれた。コロナで縮小になり参加されていない。改めて学校と相談しながら進めていきたい。避難所運営についても相談していきたい。

【意見】

娘は大原小卒業生。ろう学校も、福祉避難所として指定されている。それを子ども達がどこまで知っているのか。市と連携していくのか、地域と連携していくのか、知りたい。

ろう協は、子どものために。デフアドベンチャー長野に連れて行ってくれる。息子は、小1から皆勤賞で毎年出ている。親がなかなかそういったところに連れていけないケースもあるし、ろうの子の8~9割は聴の親から生まれている。家庭の中でも孤立しているケースもある。ろう協の中でルールを教えてもらい感謝している。

冬のデフスキー。スノボ。デフリンピックの選手との交流もある。

東京、埼玉主要な都市では、ろうの成人式をやっている。神奈川では行っていない。今度の1月から20歳の成人式ができるよう進めている。直接PTA活動とは関係ないが、学校とも情報共有をお願いしたい。

【意見】

私は20の時に県の成人式があった。その後なくなってしまった。今、進めている。

【意見】

防災に関して、能登のように、正月のような時に災害が起きたら、どのように安否確認するのか、会社内で議論している。なかなか答えはない。安否のシステムを入れている。何かあった時には、限定のエリア、対象の人に安否確認が飛ぶ。能登は何もない場所。あれだけの大きな地震だったのに、安否確認は、どこにも飛ばなかった。

火災の時にはどうなのかといった部分がまだ決まっていないので、進めていけないといけない。

来週平塚消防と想定訓練を行う。危険物施設で火災が起きた、と想定して訓練を行う。外部の人も加わってもらい行う。情報交換しながら取り組めたらと思う。

【意見】

子どもの就職に向けても、学校の役割は大切。来春、本校卒業生で

現在筑波技大に行っている子を採用したいと思っている。

委員の方とも連携して、「採用後のこんな悩みがある」やコツみたいな情報交換をもらい、生かしていきたい。

学校から伝えたい情報があれば、企業に流すこともできる。

【意見】

自立と社会参加。大きなミッション。

【意見】

横浜ゴムで働いている聾の方と、働いている方との関係性が良かった。スタッフたちの教育がしっかりできている。コツを知りたい。

【意見】

福祉避難所についてR6 定例記者会見を今ちょうど市長が行っている時間帯。その中で、6月補正の中で備蓄品の補填について話をしている。防災について、市としても力を入れようとしている。

昨年度、湘南支援学校で設営の訓練を行った。実効性の高い取組をしている。

【意見】

今年の4月から合理的配慮の義務化がされた。本校を卒業した生徒と話をする機会があった。そこで、毎日、日報を書かないといけないが、文章を書くのが苦手で、うまく書けない。そういった悩みを相談する場所や方法がわからない。この気持ちを誰かに言っているのか、言ったらいけないのかということも若者にはわからないのではないかと。ろう者の離職率が高い。中学までは、ろう教育が充実しているが、高等部になると、社会に合わせて話すことに移行していくように思う。

どうしたらいいのか互いにすり合わせる工夫が必要だと感じている。

【意見】

本人と会社の間に入って環境調整をすることもある。会社側は、耳が聞こえないだけなのだろうと思ってしまいがち。筆談をすればいいんだろうという間違った理解もある。

「サンシティ」の存在も是非お見知りおきいただきたい。

【質問】

来週の避難訓練に行かれたら、見学に行きたいが良いか。

また、さきほどの話のなかで、湘南支援学校で、避難訓練を行ったと聞いた。どんな内容でどれくらいの時間行ったのか？

【回答】

避難してきた人が来たら体育館でテントを張る必要があるのもそれを行った。また、ラップポンのデモンストレーション。通常の避難所に配置されてから福祉避難所に振り分けるという訓練を行った。参加者は、湘南

会長	支援学校他の学校も参加していた。
一同	学校経営方針、目標、ゼロプログラムに関しては、承認としてよいか？
副校長	承認。
校長	今後も随時、ご意見をいただけたら、ありがたい。2回目の開催日は、調整後に通知を出す。 学校見学は、次回行う。「口座振込依頼書」をお持ちいただいた方は、提出を。
	このような形で残りも2回行いたい。今日は、情報ビジネス科が作成した手話カレンダーを用意したので、お使いいただければと思う。